

MEIJI MURA

明治村だより

Vol.74 2013 Winter



CONTENTS

郷土玩具に見る明治時代の人と馬 2

冬の催しもの 4

わが町の建築物語 5

A La Meiji-mura 6

浪漫募金 始まる!

博物館明治村では、11月1日(金)から新たな募金制度「明治村 浪漫募金」を開始しました。この募金制度は、これまでの寄附金制度よりも気軽なものとし、1口500円であるのが特徴です。また、募金にご協力いただいた方には、1口につき、明治村の建物を模したオリジナルピンバッジと建物カードのセット(2種類)から1点プレゼントいたします。

なお、本募金制度で集まったお金は、歴史的に貴重な文化施設である明治村を後世に残していくために、建物等の修繕や村内整備に使用します。ご協力をお願いします。

- 受付場所は、明治村 村内5ヶ所(正門、北口、ミュージアムショップ、SL東京駅売店、東山梨郡役所アートショップ)
※この募金に関する村外での受付や振込みによる募金は受け付けておりません。
- 募金者特典として、1口につき、ピンバッジと建物カードのセット(2種類)から、1点プレゼントします。
- 年間で2,000円を超える寄附をいただいた場合、確定申告によって、所得控除を受けられます。申告される方は、寄附申し出時に受付窓口にて係員にお申し出ください。

〈記念品例〉



ピンバッジ



建物カード

開村日のご案内(開村時間/10:00~16:00)

12月 2013年						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月 2014年						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	21	21	22
23	24	25	26	27	28	

カレンダーの 〇 は休村日です 〼 はメンテナンスのためSLは運休します

表紙について



雪月花之内雪 浅草金亀山之圖 井上探景 明治18(1885)年
錦絵では四季折々の景色を表す「雪月花」で連作が描かれることがしばしばあり、これは井上探景の連作のうち雪景色を描いたものである。浅草寺は山号を金亀山といい、飛鳥時代に隅田川から引き揚げられた観音像を供養するために建てられた。雪の中、多くの参詣者でにぎわう寺の参道を俯瞰的にとらえた画面の右下には、明治18(1885)年に完成した仲見世の赤レンガが精密に表現されている。井上探景は小林清親に入門し、若くしてその才能を発揮した絵師であり、数々の東京名所図を残している。



池の端弁天 小林清親 明治13(1880)年



雪中梅狂群児遊戯図 楊州周延 明治20(1887)年

平成25年12月12日発行

「明治村だより」第74号(平成25年冬)

発行 博物館明治村
〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
電話(0568)67-0314
<http://www.meijimura.com>

製作 株式会社DNP中部

「明治村だより」第75号発行のお知らせ
発行時期 平成26年3月中旬(予定)
申込方法 「明治村だより」第75号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。



皮切りに、神戸の居留地、東京の招魂社（現在の靖国神社）や上野の不忍池など各地に広まっていきます。（写真4）

当初西洋式競馬は、イギリス人を主導とする外国人によっておこなわれていましたが、明治十年代になると、日本の宮家や政府要人、財界人といった身分の高い人々も競馬の観覧に訪れるようになります。そのためこれ以降に行なわれた競馬では、明治天皇から賞品を授与されたり、宮内省、陸軍省、あるいは三菱などの財閥から賞金・賞品を寄附されるなど、政財界の介入がみられるようになります。これは、競馬のために輸入された外来馬を利用して在来の国産馬を改良するための手段として、また鹿鳴館に代表されるような欧化政策の一環、国際友好の場として、明治政府が競馬を活用しようとした経緯がありました。その結果、明治初期の競馬場は、屋外の一社交場としての様相を呈しました。



写真4 九段馬かけ之図 小林清親画 明治10(1877)年



写真5 玉乗り馬 山口土人形

明治に入ると、明治四（一八七二）年にフランス人スーリエの曲馬団、次いで明治十九（一八八六）年に来日したイタリア人チャリネ曲馬団などが、日本各地で興行をおこないます。特にチャリネ曲馬団は、ライオンやラクダ、ゾウやダチョウなど、当時

も行われます。写真の土人形に見られるような馬の曲芸や、逆立ちして馬に乗るなどの曲乗りは、十八世紀の後半には日本でも見世物興行や、芝居の演目として行なわれていました。江戸時代末の元治元（一八六四）年には、横浜の居留地にいたアメリカ人興行師リズレーによって、香港の曲馬団による外国人初のサーカスも行われます。

明治十五（一八八二）年になると、東京馬車鉄道会社により新橋〜日本橋間で馬車鉄道の運行が開始されました。馬車鉄道は、道路に敷かれたレールの上を二頭立ての馬が客車を引くもので、馬車に比べて乗り心地も良く、路面電車や自動車普及するまでの期間、人々の足として大いに活躍しました。（写真2）

●玉乗り馬 山口土人形 新潟県（写真5）

新潟県阿賀野市（旧 蒲原郡水原町）山口町では、百年以上前から土人形が作られています。京都の伏見人形の流れを汲んでおり、淡い色で上品な着色が施されているのが特徴です。山口の土人形には、達磨、天神、三番叟など古来からの人形も伝わっていますが、曲馬をモチーフとした玉乗り馬、騎兵をモデルにした馬乗り鎮台など、明治時代の風俗を反映したものもあります。



写真6 チャリネ大曲馬御遊覧ノ圖 楊州周延画 明治19(1886)年

まだ日本では珍しかった動物を引き連れていたことから大変な人気を博し、明治天皇が皇后とともに公演を見に駆けられたほどでした。特に明治天皇は乗馬による馬術を愛好されたことから、殊の外興味深くご覧になられたと伝えられています。（写真6）

以上のように、馬の郷土玩具からは新たな時代の幕開けとともに、馬が従来とは異なる役割や関わり方で、人びとの暮らしに寄り添っていた様子が見えられます。展示では、ここでご紹介したような時代の世相を反映したものだけでなく、伝統的な習慣や信仰に基づくもの、宗教行事に用いられたものなど、様々なかたちで「おくりもの」となった馬の郷土玩具をご覧いただきます。愛嬌のあるおめでたい馬の数々が、皆様の心を暖める「おくりもの」となれば幸いです。

●参考文献
・斎藤良輔『郷土玩具辞典』東京堂出版 一九七二
・日高嘉雄・横田洋一『浮世絵 明治の競馬』小学館 一九九八

郷土玩具に見る

明治時代の人と馬

「午年郷土玩具展」開催にあたり



写真1 馬車 宇土張子

日本の冬は、クリスマスやお正月、そしてバレンタインといった、新旧和洋の楽しい行事が目白押しです。

この季節は、クリスマスプレゼントやお年玉、久しぶりに顔を合わせる家族や友人へのお土産、あるいは大切な人に贈るチョコレートなど、行事ごとに様々な「おくりもの」がやり取りされます。そこで今冬の企画展では、平成二十六年の干支である午にちなんだ馬の郷土玩具を、「おくりもの」というテーマでご紹介したいと思います。

馬と人の暮らしの関わりは古くから続いており、乗り物や労働力として、あるいは信仰の対象や神への捧げものとしてなど、様々な局面で見受けられます。それもあってか、明治村が所蔵する干支の郷土

「午年郷土玩具展」
会場：北里研究所本館・医学館2階
期間：12月14日～2月16日

玩具の中でも馬をかたどったものが、他の動物に比べて群を抜いて多く見られます。今回はこれら馬の郷土玩具を、縁起物やお守りとして「利益を「授かる」馬、節句の際に子どもの成長を「祝う」馬、そして養蚕や稲作の成功など祈願成就の際に神仏に「捧げる」馬に分けて、玩具が「おくりもの」としてやりとりされる目的ごとに展示します。ここでは企画展の開催にあたり、馬の郷土玩具に見る明治時代の人と馬との関わりについて、錦絵とともにご紹介します。

●「馬車」宇土張子 熊本県（写真1）

宇土張子は、明治二十（一八八七）年頃、広島県尾道出身の夫婦が、旅の途中で熊本県宇土市を訪れた際に、滞在先の家に寄宿のお礼として張子作りを伝えたことが始まりとされます。飾り馬や虎、相撲取りなど伝統的なモチーフだけでなく、馬車や人力車、蒸気船など明治時代の世相を反映したものも作られました。

乗合馬車は、明治二（一八六九）年に横浜の元町〜吉田間で、居留地の外国人によって始められました。馬車は一頭立てか二頭立てで、八人から十二人乗りで営業されていました。しかしながら市街地での馬車の運行は危険も多く、整備が不完全な道路での乗り心地はあまり良く無かったようです。

明治十五（一八八二）年になると、東京馬車鉄道会社により新橋〜日本橋間で馬車鉄道の運行が開始されました。馬車鉄道は、道路に敷かれたレールの上を二頭立ての馬が客車を引くもので、馬車に比べて乗り心地も良く、路面電車や自動車普及するまでの期間、人々の足として大いに活躍しました。（写真2）

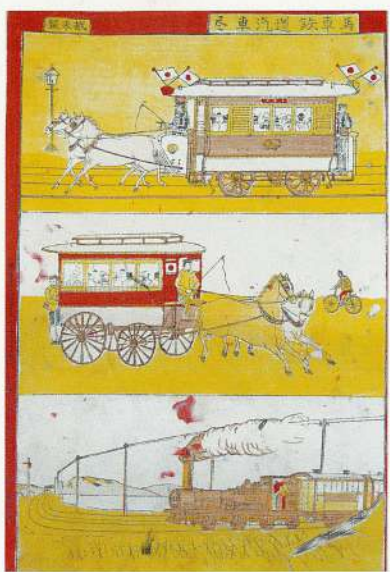


写真2 馬車鉄道汽車尽 作者不詳 明治29(1896)年

●バネ馬 東京都（写真3）

バネ馬は「びよんびよん駒」とも呼ばれ、東京をはじめ日本各地の縁日などで売られた玩具です。当時の子どもたちは、斜面などでバネ馬を競馬に見立てて遊んだようです。

日本では、競馬のように馬を競わせる行事として、「競べ馬」が奈良・平安時代に宮中行事のひとつとして始められました。現在私たちが目にするような西洋式競馬は、万延元（一八六〇）年に居留地の外国人によって横浜の元町あたりでおこなわれたものが、最古の記録とされています。その後、西洋式競馬は、慶応二（一八六六）年に完成した国内最初の本格的な西洋式競馬場である、横浜の根岸競馬場を



写真3 バネ馬

しあわせ♡ SAKEフェス

◆日本酒 試飲
15の酒蔵の新酒しぼりたてを含めた日本酒を試飲していただけます。

- 開催日: 1月11日(水・祝)～5日(日)、1月11日(土)～2月16日(日)の土日祝
- 会場: 菊の世酒蔵ほか
- 時間: 11:00～15:30

◆日本酒 販売

- 開催日: 1月1日(水・祝)～2月16日(日)
- 店舗: ミュージアムショップ、SL東京駅売店

◆日本酒カクテル体験

サムライロックやカクテルなど、日本酒の新しい飲み方をご提供します。(有料)

- 開催日: 1月1日(水・祝)～2月16日(日)
- 店舗: デンキブラン 汐留パー



◆ききSAKEイベント

あなたは味分けられるかな? 正解者には酒造ロゴ入のお猪口をプレゼント。(各日先着50個)

- 開催日: 1月11日(土)、12日(日)、13日(月・祝)
- 会場: 菊の世酒蔵
- 時間: 13:00～14:00

しあわせ♡ HAPPY♡バレンタイン

2月1日(土)～2月16日(日)
ペアアイテムをご持参のカップルは入材料半額! ※入料窓口でご提示ください。

●バレンタインコンサート

- (会場: 聖ザビエル天主堂)
- ☆ 響コンサート
 - 開催日: 2月8日(土) ■ 出演: 男声合唱団 響
 - 時間: 13:00～
- ☆ アルバの調べ
 - 開催日: 2月9日(日) ■ 出演: 奥村陽子
 - 時間: ①13:00～ ②14:30～
- ☆ ソプラノコンサート
 - 開催日: 2月11日(火・祝)
 - 出演: 新宮雅美(ソプラノ) 野口夏菜(ピアノ)
 - 時間: ①13:00～ ②14:30～

●はあとふる♡ラブレター

10年後に手紙をお届けする好評企画「はあとふるレター」の期間限定企画。それぞれの手紙は1年後の2月中旬にお届けします。

- 期間: 2月1日(土)～2月16日(日) ■ 受付: 宇治山田郵便局舎
- 料金: 2通500円(レターセット代金が別途必要、持込可)

『おとなさんぽ 明治村ほっこりきっぷ』

名鉄電車全線・犬山駅～明治村間のバス 1DAYフリーきっぷ + 明治村入村券
+ 村営バス乗り放題と ほっかほかのコーツケ付 = 3,200円
期間 平成25年12月20日(金)～平成26年3月31日(月)

★冬限定★
あったかグルメ

12月14日(土)～平成26年2月16日(日)
♥身も心も温まる冬限定グルメをご用意しました。

リアル謎解きイベント「インフェルノ・コード」

- 主催: RUSH JAPAN株式会社
- 開催日: 1月25日(土)～2月16日(日)の土日祝
- 料金: 前売り 2,400円(入材料別途必要)
- ※詳しくは明治村HPへ

しあわせ♡ めいじ
2013.12.14(土) → 2014.2.16(日)

しあわせ♡ HAPPY♡ニューイヤー

●明治神社でも初詣

明治神宮の特別神符をお祈りする明治神社で新年の幸せをお祈りしましょう。

- 期間: 1月1日(水・祝)～
- 会場: 鉄道局新橋工場内 明治神社

●日本各地の門松・しめ縄めぐり

村内の建物に、旧所在地の門松やしめ縄を飾ります。

- 開催日: 1月1日(水・祝)～1月26日(日) ※門松は13日(月・祝)まで
- 会場: 正門、東松家住宅、京都中井酒造、宇治山田郵便局舎 ほか

●日本のあそび体験

- 開催日: 1月1日(水・祝)～5日(日)
- 会場: 食道楽のカフェ横芝生広場 (雨天時: 第四高等学校武道場「無声堂」)



日本の遊び体験

●鏡割り

- 開催日: 1月1日(水・祝)
- 会場: 食道楽のカフェ横芝生広場 (雨天時: 第四高等学校武道場「無声堂」)
- 時間: 12:00～ ■ 協賛: 東洋自慢酒造株式会社

●餅つき

明治村スタッフと一緒に餅をついてみませんか?

- 開催日: 1月2日(木)、3日(金) ※雨天中止
- 会場: 食道楽のカフェ横芝生広場 ■ 時間: 13:00～

●書き初め道場

- 開催日: 1月3日(金)、5日(日)
- 会場: 近衛局本部付属舎
- 時間: 12:00～15:00 ■ 料金: 半紙5枚100円

●書道パフォーマンス

- 開催日: 1月4日(土)、5日(日)
- 会場: 帝国ホテル中央玄関
- 出演: 小林勇輝、音鼓義男(ドラム奏者)
- 時間: 13:00～

●受験生応援 SL12号すべり止めの砂プレゼント!

明治時代より今なお現役で走るSL12号の、車輪の滑り止めに使用している砂を、特別に配布します。(各日先着100名様)

- 開催日: 1月11日(土)、12日(日)、13日(月・祝)
- 会場: 鉄道局新橋工場 ■ 時間: 10:30～

冬の特別展

うま 午年郷土玩具展
一馬のおくりもの

- 会場: 北里研究所本館・医学館2階 本誌特集で紹介しています。



期間中

※各イベントは荒天時、中止となることがあります。悪しからずご了承ください。
※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。
※休村日は裏表紙の休村日カレンダーをご覧ください。

お問い合わせ先

http://www.meijimura.com または 0568-67-0314

しあわせ♡ ザビエル天主堂、装う。

120年以上も愛を見守っている聖像たちが、冬限定の特別装飾の中、皆さまをお出迎えます。

想いで彩るチェキリース

お客様を「チェキ」で撮影し、1枚はメッセージを書いてリースへ、もう1枚はおお客様の思い出に。

- 開催日: 12月14日(土)～1月5日(日)、1月11日(土)～2月16日(日)の土日祝
- 料金: 1回 500円(入材料別途必要)
- 協賛: 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社



しあわせ♡ しあわせのバラ探し

期間中

建造物に装飾された「バラ」や偉人まつわる「バラ」など、明治村内に隠れている様々な「バラ」を、写真やヒントを手がかりに探し出そう! クリアした方には、景品をプレゼント。驚きあり、笑い? ありのバラ探しに、友だちやカップルで挑戦!

- 受付: 近衛局本部付属舎・帝国ホテル中央玄関
- 時間: 10:00～15:30
- 参加料: 1枚 300円(入材料別途必要)
- 協賛: 名鉄グランドホテル

景品

明治村オリジナル蓄薇窓ピンバッジ
★全8枚のバラ探しシートを全てクリアした方には「明治村お食事券」を進呈。

Wチャンス

参加者の中から抽選で、名鉄グランドホテル「スペシャルローズディナー券」を10組20名様にプレゼント。

しあわせ♡ HAPPY♡クリスマス

(会場: 聖ザビエル天主堂)

★クリスマスミサ

- 開催日: 12月23日(月・祝)
- 時間: 11:00～

★コンサート

- ☆ ジャズコンサート
 - 開催日: 12月14日(土)
 - 出演: Super Cool
 - 時間: ①13:00～ ②14:30～
- ☆ ソプラノ コンサート
 - 開催日: 12月21日(土)
 - 出演: 新宮雅美(ソプラノ)、小澤美咲(ソプラノ)、野口夏菜(ピアノ)
 - 時間: ①13:00～ ②14:30～
- ☆ ハンドベルコンサート
 - 開催日: 12月22日(日)
 - 出演: 金城学院中学校 ハンドベルクワイアー
 - 時間: ①13:00～ ②14:30～
- ☆ クリスマスコンサート
 - 開催日: 12月23日(月・祝) ■ 出演: コンプリオ
 - 時間: ①13:00～ ②14:30～
 - 開催日: 12月24日(火) ■ 出演: 師勝はなの樹幼稚園
 - 時間: 13:00～

なるほど!ザ・長岡外史

●高田小熊写真館内(5丁目65番地)



明治村の五丁目位置する高田小熊写真館は、明治四十一(一九〇八)年、日本でも有数の豪雪地である新潟県高田市(現上越市)に、同県柏崎市出身の小熊和助氏によって開業されました。建物内には小熊氏によって撮影された写真の数々が展示されており、写真館開業とほぼ時を同じくして高田に移転してきた陸軍第十三師団と、ここで実施された日本初のスキー訓練に関連した写真もご覧いただけます。今回は展示されている写真の中から、陸軍将校・長岡外史(一九五六〜一九三三)(写真1)について

紹介したいと思います。

外史は、その特徴的な髭で知られているほか、スキーや航空事業の民間普及を推進するなど、数多くの偉業を成しました。ここでは、二〇一三年に没後八〇年を迎える同氏について、その足跡と逸話の一端をご紹介します。

なぜ「外史」という名前がつけられた?

安政三(一八五六年)、山口県都濃郡(現下松市)に長岡外史、幼名「忠蔵」は生まれました。

明治二(一八六九)年、外史は長岡家の養子となり同県萩に移り住み、名を



写真1 室内展示より長岡外史(中央)

「長岡豊輔」と改めました。外史は幼少期より寺子屋に通い勉学に励んでいたことから、萩に移り住むと長州藩の藩校、萩明倫館に入学することができました。外史という珍しい名前が誕生するのは、旧長州藩主の毛利元徳が明倫館を訪れた時のことでした。元徳は、外史が漢文の授業で頼山陽が著した史書「日本外史」を、暗誦する姿を目にします。これに感心した元徳が、これからは「外史」と名乗るよう進言したことから、以降「長岡外史」として名乗るようになりました。

立派なお髭は世界一?!

長岡外史の名前は知らずとも、飛行機の翼のように左右に伸びた髭の軍人さんの姿を、どこかで目にすることはないでしょうか?

外史の髭は明治時代に流行した「カイゼル髭」の一種で、その形から「プロペラ髭」とも呼ばれました。外史がこのような髭にしたのは、明治三十二(一八九九)年に、軍事視察のためドイツを訪れた際、当地でカイゼル髭が流行しているのを目にして、それまで蓄えていた顎や頬の髭を剃り、口髭をカイゼル髭にしたことがきっかけだとされています。

こうして生やし始めた髭が、プロペラのように長く伸びた秘訣は八丈島産の椿油だったようです。大正三(一九一四)年、大正天皇の即位式の際に当時の八

丈島支庁長が、外史の髭を世界一にしたいと申し出て、八丈島産の椿油を送ることを約束します。この椿油を髭に塗るようになってから、外史の髭はグングンと育ったようで、最長時は左右に七〇センチ近く広がったといわれています。

この長い髭は、当時ドイツで世界一とされた男性の髭の長さを超えたことから、外史の髭は世界一として知られるようになり、その名はドイツまで届きました。ただこの髭も時に不便であったようで、外史が晩年病床に伏したとき、看病をした看護師がこの長い髭をもてあましてしまい、思案の末、髭を頭上で結んでしまったという逸話も伝わっています。

スキーを研究せよ!!

明治四十三(一九一〇)年、外史は仙台から高田に移転した陸軍第十三師団の師団長に就任します。着任早々、陸軍省より十三師団宛てに一通の文書が届きます。そこには、軍隊用スキーと書籍を送ること、そして十三師団第五十八連隊にスキーを熟知したオーストリアの軍人、レルヒ少佐を派遣するので、スキーについて実験をおこないその効用を調査・報告せよとの通知が記されていました。

外史は、早速第五十八連隊の堀内文次郎連隊長を委員長とするスキー委員会を組織して、レルヒ少佐の赴任まで

の期間、スキーの研究を指示しました。当時伝わったスキーは、長い杖のよくな一本のストックで滑る「リリエンフェルトスキー」でした。(写真2)

委員会ではフランス語で記されたスキーに関する書籍を翻訳して、スキーの概略は把握できたものの、実際に滑る技術についてはなかなか向上しませんでした。その後、明治四十四(一九一一年)の一月、高田へと赴任したレルヒ少佐を教官として本格的なスキー訓練が始められ、以降陸軍のみならず、広く人々の間でスキーが広まっていきま



写真2 室内展示よりレルヒ少佐(右)と堀内連隊長(左)

の技術があれば事件の発生が避けられたのでは、との思いもあり、外史はスキーの普及に尽力しました。

日本に飛行機の利用を広めたい!!

外史が軍事関係以外で歴任した役職には、やや珍しいものが目に留まります。「臨時軍用気球研究会長」、「外人飛行家

歓迎委員長」、「帝国飛行協会副会長」、「初代飛行館長」など、特に明治時代後半から晩年に至るまで、空を飛ぶ乗り物にまつわるものが続いています。

大正四(一九一五)年に陸軍の仕事から退いた外史は、それ以前からも働きかけを行っていた国内の航空事業推進に力を傾けるようになります。外史が航空界と関わるきっかけとなったのは、明治四十二(一九〇九)年、時の陸軍大臣 寺内正毅より、臨時軍用気球研究会の会長を任命されたことでした。寺内は、戦争において、将来的には空中戦が重要となると考え、これに先立ち軍の中でその研究を進めることを研究会に求めました。これは、ライト兄弟がアメリカで初の有人飛行に成功してたった六年後のことで、当時日本ではまださほど飛行機の利用価値について注目されていませんでした。

その後、国民飛行会など航空事業に関する組織の設立、機関紙「国民飛行」の発行など、多くの人びとに航空事業、及び関連政策を確立することの重要性を説き続けます。

その最中発生した関東大震災によって、交通・通信手段を失い、焦土と化した東京を目にした外史は、翌大正十三(一九二四)年に山口県から立候補して衆議院議員となります。国会議員となった外史は、新たな交通手段としての飛行機の活用や、国防上の観点から飛行場の建設が重要であることを訴えるとともに、羽田を国際飛行場とする計画

を提案するなど、現在へつながる航空事業の端緒を開きました。

飛行機にかかる外史の情熱は、生涯絶えることはありませんでした。その情熱は、旅客機の中で結婚式をおこない、明治神宮の上空で三々九度の杯を交わすという前代未聞の「空中結婚式」の媒酌人となったり、家族に宛てた遺書には、遺骨は飛行機で太平洋に運び海に葬るという「航空葬」を命じたほどでした。

ここで紹介した長岡外史、そしてスキーの普及の発展に寄与したレルヒ少佐、第五十八連隊の堀内連隊長などの写真は、高田小熊写真館の二階に、これらを撮影した写真館の主、小熊和助氏の肖像とともに「小熊写真館思い出アルバム」として飾られています。高田小熊写真館で写真をご覧いただく機会がありましたら、明治から昭和にかけて、国民生活の向上を一心に願い、これを実現へと導いた立派な髭の軍人がいたことを思い起こしていただければ幸いです。

参考文献

- 戸田大八郎「航空とスキーの先駆者 人間 長岡外史」大空社 一九九四
- 長岡外史文書研究会「長岡外史関係文書回顧録」吉川弘文館 一九八九
- レルヒの会、上越市総合博物館
- 「スキー発祥 思い出アルバム」
- ベースボール・マガジン社 一九八八